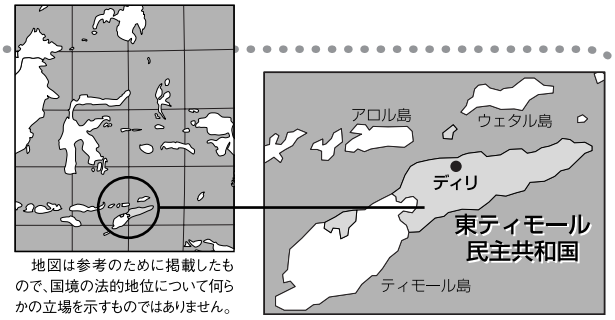
ユニセフ子ども物語
地球に生きる子どものくらし

The Democratic Republic of Timor-Leste

東ティモール民主共和国



地図は参考のために掲載したもので、国境の法的地位について何らかの立場を示すものではありません。

キラキラ光る星になったマルタの願い

恐ろしい毎日から、やっと小学校卒業へ

マルタは明るく元気な女の子です。将来は学校の先生になってたくさんの子どもたちに希望を与えたいと夢みています。

数年前、マルタの住む東ティモールは国中が騒乱状態になりました。とても恐ろしい毎日に家族で山の中に逃げました。争いが落ち着いて戻ってくると家は焼かれ、何もかも破壊されていました。マルタは信じられない光景に驚き、涙があふれてきました。家族みんなで協力して家を建て直し、やっと生活が落ち着いてきた時、マルタは妹と一緒にユニセフの支援を受けて修復された小学校へ再び通い出しました。

卒業が近づいたある日、「子どもたちの小学校の授業料とマルタの卒業試験の受験料をなんとかしなくては…」と両親が相談しているのを聞いてしまいました。「学費のことで困っているんだわ」マルタは心配でたまらなくなりました。

マルタは森でまきを集めてきて売ったり、お父さんの畑でお手伝いもしました。ようやくお金がたまって無事に小学校を卒業し、中学校に入学することができたのです。

早い結婚ばなし

中学生のマルタは14歳。東ティモールでは昔から両親が相手を決めて結婚させてもおかしくない年齢です。昔からの慣習に従うことや、家計の負担を減らすために結婚させようとするのです。「私、もっと学校で勉強がしたいの。将来、先生になりたいの。お願いだから結婚させないで。お手伝いをするから。お願いよ」一生懸命に両親にお願いしましたが願いはきいてもらえません。とうとうマルタもあきらめかけた時、学校の先生が、「女の子でも夢を持って世の中のためになる仕事をすることができます。そのためには学校で勉強することが必要です」とマルタの夢を理解し、両親を説得してくれたのです。

満天の星空に誓う夢

マルタはうれしくてこれまで以上に勉強をがんばり、全国の優秀学生のひとりとして表彰されるまでになりました。お父さん、お母さん、友だち、励ましてくれた先生が心から喜んでくれました。マルタは助けられ、励まされ、望みを捨てずにがんばることで大きな幸せを勝ち取ったのです。マルタは満天の星空を見上げながら心の中で叫びます。「かなった願いは星になって輝くんだわ。私、きっと先生になる夢をかなえるわ！」

＜文・構成：（財）日本ユニセフ協会＞

物語の国

東ティモール民主共和国

東ティモールはインドネシアの最東端、ティモール島の東側で、長野県ほどの広さに人口は約85万人。約400年間ポルトガルの植民地だったため97%がキリスト教徒です。1942年から3年間、日本の占領下におかれ、その後24年間インドネシアの占領下にありました。1999年に独立を求める住民投票直後の騒乱で治安が悪化し、国内外に多くの避難民が出ました。2002年5月、東ティモール民主共和国として独立しました。

新しい国づくりは子どもの権利を守ることから始まる

ディリ市内の教会
©日本ユニセフ協会

ユニセフの支援活動

ラジオを活用して伝える女の子の権利と夢

イメージキャラクターのマルタ

東ティモールの女の子が置かれている状況はきびしく、家の手伝いや早い結婚など、古くからの慣習や差別によって将来の選択はせばめられたものとなっています。子どもの半分は小学校を卒業することができない中、その多くが女の子です。社会的地位が低い女の子に明るい未来があることを知ってもらい、質の良い教育を特に女の子を中心に広げることは、新しい国づくりのためにとても大切です。

ラジオ局のスタッフ　©日本ユニセフ協会

『星をつかもう（REACHING FOR THE STARS）』は、「女の子の権利」と「夢」を伝えるために、ユニセフが支援してつくられた15分のラジオドラマです。貧しい生活の中で女の子が夢に向かってがんばる姿と、さまざまな人が助けたり応援したりして、女の子が幸せの星をつかんでいく過程を描いています。主人公マルタはきびしい状況を生きる東ティモールの女の子そのもので、放送後は自分と重ね合わせて聴き入る女性や女の子から反響が寄せられます。東ティモールにはまだテレビ局が1局しかなく、ラジオが重要な広報手段です。

ひと家族に1台のラジオもないため、ラジオのある家に集まりみんなで聞いています。

ロスパロス コミュニティラジオ局　©日本ユニセフ協会

ラジオドラマ『星をつかもう』は、2003年9月10日から東ティモールに18ある全ラジオ局で放送が開始されています。

ユニセフの支援活動

質の良い教育をめざす「100校プロジェクト」

アタヌス小学校　©日本ユニセフ協会

ユニセフが行う「子どもにやさしい100校」は、子どもが質の良い基礎教育を受けることを大きな目標にしています。全国の724の小学校を、7つ位の地域の学校からなる学校群（クラスター）にして、核となる小学校を中心にした100のクラスターをつくります。

クラスターごとに先生の研修やPTA研修、学校管理能力の向上、教育行政官の能力向上をはかるのです。先生、両親、村人の積極的な学校運営への参加をはかり、自助努力と教育の大切さを訴えています。ユニセフはカリキュラムの開発、先生の教材、副教材の開発支援なども行っています。

アタバイ小学校　©日本ユニセフ協会

ユニセフの支援活動

新しい国づくりへの子どもの参加

東ティモールは世界で一番新しい国です。ユニセフは東ティモールの新しい国づくりに大きな役割を果たしています。例えば、国家予算の約23%を教育に、約12%を保健に獲得するために努力しました。憲法の条文に「子どもの権利」をうたうことができ、子どもの権利条約に基づくように、国内法を整備しています。

新しい国づくりへの参加のために、子どもから意識を変えていくことが重要です。人口の約60%は18歳未満なので、子どもに十分に投資しないと国の将来は考えられません。

ユニセフはすべての中学校、高校に生徒会をつくり、民主主義を理解してもらう機会にしています。17歳で選挙権が得られるので、子どもたちを教育することは直接国づくりにつながるのです。2002年8月の憲法制定議会選挙では、「選挙とは何か」「投票するとはどういうことか」という『選挙』についての理解を深める活動をユニセフが支援しました。